

評価者	防災安全部長	柿崎 雅之
-----	--------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針

総合計画上の位置付け	分野	防災・安全	施策の方針	防犯活動の充実・強化
目標とすべきま ちの姿	市民の防犯意識は高く、積極的な地域防犯が図られています。地域防犯力の向上により、刑法犯認知件数は、引き続き減少傾向にあり、現在と同じく県内で最少の状況を保っています。また、犯罪が発生しにくい市街地の環境づくり等が進み、安全で安心して暮らすことができるまちづくりが推進されています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	15.1%	平成27年度	12.0%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.6%	1.4%	0.2%
ちょうどよい	1.4%	51.6%	0.7%
効果不十分	4.0%	3.8%	14.5%

平成26年度

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.9%	2.9%	0.1%
ちょうどよい	2.3%	57.2%	0.9%
効果不十分	1.9%	3.6%	11.9%

平成27年度

<妥当性の分析>

お金の使い方、仕事の効果ともに「ちょうどよい」と答えた割合が、平成26年度、27年度とも50パーセントを超えているが、仕事の効果不十分でお金の使い方が「足りない」と回答している割合が約12%となっており、より充実した事業を期待する傾向にある。

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成26年度	27.2%	49.3%	2.8%	20.8%	100.0%
平成27年度	23.9%	56.1%	2.0%	18.0%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成27年度の目標

新たに防犯教室等の開催する団体や施設を開拓し、防犯意識の高揚を図る。
平成27年度中にESCO事業による防犯灯の一斉LED化を図る。

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

整理番号	評価対象事業名 事業名	決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
		平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	事業内容	予算規模
防安-09	安全・安心まちづくり推進事業	109,185	104,587	128,174	131,976	2.5	3.5	b	C

(3) 主な実施内容

【主な実施内容】
新たに防犯教室等の開催する団体や施設を開拓し、防犯意識の高揚を図った。
平成27年度中にESCO事業による防犯灯の一斉LED化を図った。

【実施できなかった事業とその理由等】

(4) 平成27年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>
 平成27年度実施予定の事業は、市民等要望を含め、概ね実施できた。
 防犯灯の一斉LED化事業を年度内に概ね実施できた。

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

市民意識調査や市民からの直接的な意見から、現在の取組を継続しながら、新たな犯罪の手法について警察等との連携を強化し、市民及び地域の防犯団体等への情報提供、対策等の周知を図り、「自らの安全は自ら守る」、「地域の安全は地域で守る」との意識の高揚を図る。

4 平成28年度の目標

市民意識調査や市民からの直接的な意見から、現在の取組を継続しながら、新たな犯罪の手法について警察等との連携を強化し、市民及び地域の防犯団体等への情報提供、対策等の周知を図る。
 「自らの安全は自ら守る」、「地域の安全は地域で守る」の意識の高揚を図るための防犯教室等の周知を図る。
 自治町内会等から移管された防犯灯の維持管理体制の確立を行う。

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ)

整理番号	防安-09	事業名	安全・安心まちづくり推進事業							
指標の内容	人口1,000人あたりの刑法犯認知件数					単位	人	指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
	目標値	5.0	4.9	4.8	4.7	4.6	4.5			
	実績値	5.3	4.4							
	達成率	94.3%	111.4%							

参考 前年度外部評価結果への対応

<p>鎌倉市民評価委員会からの指摘</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政と自主防災組織など、地域の連携の更なる推進が課題である。 犯罪の少ないまちであるが、時代の変化で安心、安全とはいいきれない。地域と連携・協力体制を図りたい。 	⇒	<p>指摘への対応、コメント等</p> <p>時代の変化にも対応し、市民が安全で安心して暮らすことができるよう、また、地域との連携協力が図れるよう、新たな犯罪の情報提供等に努めていく。</p>
--	---	---

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・市民の防犯意識も高く犯罪の少ないまちである。
- ・防犯灯のLED化でまちが明るくなった。自治町内会の維持管理の手間がはぶけた。目標が計画通りに遂行された。
- ・市民・関係団体及び警察と連携強化を図りつつ、防犯体制等の整備を進めた。
- ・犯罪の抑止及び減少効果が得られ、安全安心に暮らせるまちづくりの実現に寄与した。
- ・刑法犯認知件数が約60%減、県内19市中最小値もしくは2番目となっていることは、もっと誇ってもよいことである。

		評価の内訳						⇒	委員会の評価	
取組	↗	5	↘	0	→	3			↗	
効果	○	5	△	0	—	3		○		

《課題》

- ・振り込め詐欺等、知能犯の件数が増加することに対する取組がなされておらず、高齢者への防犯意識を高める上でも、起きた犯罪の詳細を把握することが求められる。
- ・なぜ市内の犯罪の発生率が低いのか、分析した上での今後の働きかけが求められる。
- ・「自らの安全は自ら守る」、「地域の安全は地域で守る」の意識の高揚をどう図るかが問題である。
- ・自治町内会等から移管された防犯灯の維持管理体制の確立をどのように行っていくかが問題である。
- ・防犯教室等の団体や施設の開拓とは何か？その結果なぜ、誰の防災意識が高まったのか等が分からない。

《提言》

- ・地域（NPO団体、自治町内会等など）との連携が大切である。地域・警察と連携し、防犯教室の開催を継続すべきである。
- ・「新たな犯罪」はTV番組等社会的な関心が高いにも関わらず、実被害は急増していると思われる。高齢化率が高く、一人暮らし高齢者世帯の急増が予測される当市にとって重要な課題であり、実効ある手立てが必要である。
- ・高齢化や空き家の増加・外国人観光客の増加に伴い、今までになかった種類の犯罪が増える可能性がある。他分野とも協力体制を取って、早め早めに手を打ってほしい。
- ・被害軽減に努め、市民の安全を確保するために、限られた人員の中で、効率的に職員を派遣し、防犯教室等での周知を図っていくべきである。
- ・防犯灯を交換するのであれば、調査の上、場所によっては青色にするなど別の効果を計るべきである。
- ・平成28年度の目標となっている事項（指標）については、来年度の評価シートに何をどれ位行った結果、どの様な効果があったのかを具体的に記載すべきである。